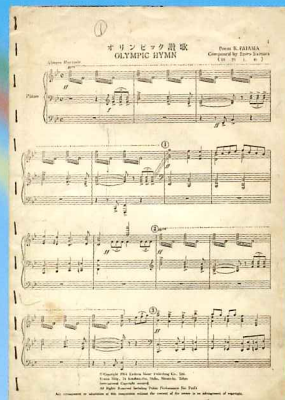


文学企画展

東京五輪と文学



瀬戸内晴美



野上彰が訳した「オリンピック讃歌」の楽譜
(イースタン・ミュージック)



『東京オリンピック 文学者の見た世紀の祭典』
(1964年 講談社)
瀬戸内晴美と中野好夫の観戦記などを収録



野上彰



中野好夫

2020年の東京オリンピックを
来年に控え、1964年に開催さ
れた東京五輪を徳島ゆかりの文学
者を通して振り返ります。徳島生
まれの詩人・野上彰が訳詞し、開
会式と閉会式で歌われた「オリ
ンピック讃歌」(パラマ作詞、サマ
ラ作曲)、徳島生まれの作家・瀬戸
内晴美(寂聴)が見た柔道の観戦
記、徳島ゆかりの評論家・中野好
夫が書いた、当時はあまり注目さ
れていなかったパラリンピックの観
戦記などを紹介します。

2019年 **6月15**日(土) ~ **8月31**日(土)

開館時間 9:30 ~ 17:00

休館日 月曜日

(ただし7月15日・8月12日は開館、7月16日は休館)

会場 徳島県立文学書道館 3階文学常設展示室

観覧料 一般 300円(240円)

高校・大学生 200円(160円)

小・中学生 100円(80円)

*()内は、20人以上の団体割引料金。
小・中・高校生は、土・日・祝日と夏休み期間中は無料。
高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。